

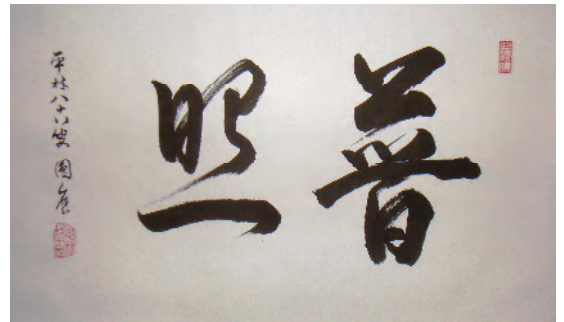
再建だより (第2号)

平成28年5月25日

臨済宗妙心寺派 圓福寺

基本設計

- ・菅野企画設計さんの基本計画案
- ・工期と施工業者の選定について
- ・第一回打ち合わせ（3月1日）
- ・第二回打ち合わせ（4月1日）



菅野企画設計さんのコンセプト

安全性

- 南側道路～駐車場～本堂に至る参道に段差を設けない。
- お墓へ段差なく行ける駐車場を設ける。
- 本堂以外の伽藍も耐震力が高く、開放的な間取りが可能な鉄骨造とする。
- 防火性能が高い準耐火構造で設計する。



機能性

- 伽藍をコンパクトにまとめ、できるだけ広い空地を確保する。
- 催し物用の倉庫を造る。
- 駐車場から本堂の前を通ってお墓へ行ける道を造る。
- 本堂及び1階の各部屋は機能的に配置し、段差を設けない。
- 伽藍中央に中庭を配置し、採光と通風を確保する。
- 書院は椅子利用とし、広く機能的な配膳室を隣接させる。
- 玄関ホールは3.5畳の広さを確保し、法要受付など多目的に使用する。
- 書院の近く、配膳室の近くなど随所に倉庫を設ける。
- 本堂の近くにまとまった倉庫を設ける。

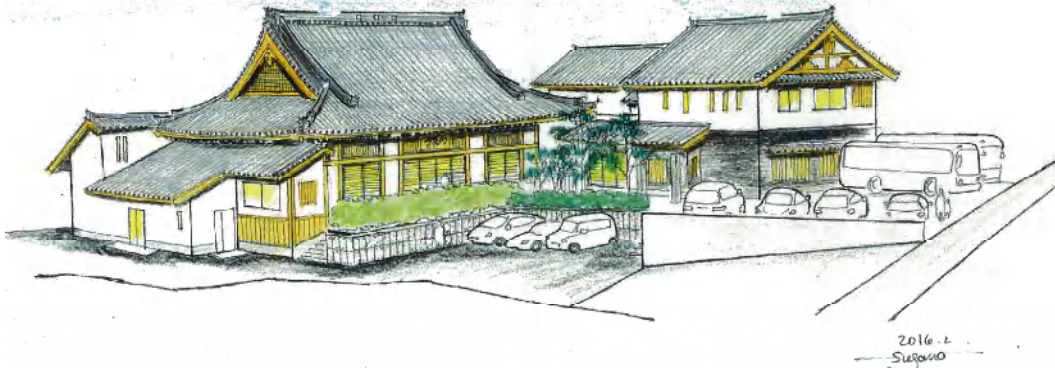
伝統———禅寺らしさ

- 本堂は、国産の木材をふんだんに使っても、木造より経済的な鉄骨造とする。
- 伝統的な木造本堂の外観（入母屋造り瓦葺き）とする。
- 伝統的な間取りを踏襲し、参拝者が座る広縁を4.5畳確保する。
- 本堂の前に木を植え、道路の喧騒を遮り、静かな環境を造る。
- 中庭に面して茶室を配置し、和の風情を楽しむ。



目次：

工期と施工業者について	2
業務委託契約	3
プレゼンの平面図	4～5
第1回打ち合わせ内容	4～5
第2回平面図	6
第2回打ち合わせ内容	7
基本計画断面図	8



左の絵は、菅野企画設計さんのプレゼンテーションでの基本計画案をもとにした俯瞰図です。これで計画が決定したわけではありませんので、誤解されませんように・・・。

工期と施工業者について (プレゼンテーションの続き)

設計期間 及び 工期

	平成28年												平成29年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
設計	基本設計					実施設計								
申請							事前申請	確認申請 適合性判定						
工事								見積期間 見積調整	契約 工事準備		着工		11月末竣工	

「再建だより」第1号につづいて、基本計画をお願いすることに決定した菅野企画設計さんのプレゼンテーションの内容を掲載いたしました。上の設計期間および工期は、第1号と重複するものです。

実際の工事をしてもらう施工業者さんをどのように選ぶかについて、右が菅野企画設計さんの進め方でした。この中のアンケートで、施工業者さんの社寺建築の実績や会社の業績、有資格者や現場監督者の件についても詳細に把握できるようにしてあり、万全の業者選定の方法を取られていました。

工事契約までの流れ

【見積り業者選定】

業者から、アンケートをとる。
アンケートの結果を一覧表にする。
建設委員会で検討して頂き、見積り依頼業者を決める。



【見積依頼】

見積り業者各社に現場説明会を行う。
(住職・建設委員が数名立会う)
書面にて質疑回答を行う。
見積り提出。
(お寺に封印して提出)
見積り開封。
(住職・建設委員が数名立会う)
見積書の比較検討書の作成。
(各社の見積書の内容を確認して比較検討書を作成する)
建設委員会で検討して頂き工事を依頼する業者を決定する。



【工事契約】

工事請負契約を締結する。
(住職・建設委員が数名立会う)

菅野企画設計さんとの契約

業務委託書

平成28年 3月 10日

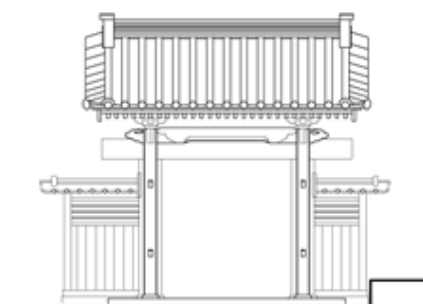
委託先 宗教法人 圓福寺 代表役員 宮田宗裕

上記のとおり委託します。

業務の名称	宗教法人 圓福寺 伽藍再建 マスタープラン作成
業務の場所	〒263-0025 千葉県稲手区大川町375
担当取締役	菅野
業務内容	伽藍再建（本堂・書院・庫裏の再建）とそれに伴う伽藍再建のマスタープラン作成
単 位	1,000,000円
報酬支払時期	発注金決済期：1,000,000円、業務完了時：1,000,000円
発注開始	平成28年3月
発注終了予定	平成28年
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・本件、委託者（宗教法人）が（仮称）宗教法人圓福寺本堂・書院・庫裏再建工事設計管理契約を締結した上で、マスタープラン作成は設計監理業務の中で行ったものである。 ・当該業務が必要に応じて委託者の負担とする。 ・敷地の詳細な測量が必要の場合は委託者の負担とする。

上記の内容で業務委託いたします。
平成28年 3月 10日
株式会社 菅野企画設計 代表取締役 菅野良司

菅野企画設計さんとは、プレゼン後最初の打ち合わせの折に、基本計画作成のお願いをして、3月10日に、左記の通り業務委託書を取り交わし、正式に契約を致しました。なお、業務委託書にも明記してありますが、実際に建築工事が始まり、工事設計管理契約を結んだ場合には、この基本計画作成の費用は設計監理の費用に含まれることになります。



設計士さんプレゼン後

2月10日の設計士さんプレゼンにご足労いただいた4社の方々には、お忙しい中、貴重な時間を割いていただき、本当にありがとうございました。

今回、ご縁が熟さなかった3社には、右のようなお手紙を差し上げて、お断りをさせていただきます。

平成28年2月11日

〒263-0025
千葉県稲手区大川町375
宗教法人 圓福寺 代表役員 宮田 宗裕
TEL 043-251-9181 FAX 043-251-9549

圓福寺伽藍再建に関するご提案の件

拝啓 時下 春寒の候

貴社におかれましては年度末を間近に控え、ご多忙のことと存じ上げます。返日は、当止伽藍再建にあたり、貴重なお時間とご提案をいただき、心より御礼申し上げます。

長らく、当役員および寺僧等と意見検討させていただき、今回のご提案はお断りさせていただくことと判断いたしました。折角お時間を利用していただき、有用なご提案をいただいたにも関わらず、お断りさせていただくのは心苦しいのですが、なにとぞご理解の上で寛恕のほどお願い申し上げます。

以上、要領の添いで失礼いたしますが、尚後貴社の様々な喜顔を祈念申し上げます。尚、お断りになり、誠にありがとうございます。

敬白

3月1日 第1回打ち合わせ

プレゼンテーションで提示された基本計画の図面をもとに、さっそく第1回の打ち合わせを致しました。

以下、お寺側から出された改善点や希望、その対応策をまとめました。

I、本堂

・本堂屋根は本瓦葺きが希望。

本瓦葺きは社寺建築に使われる屋根の葺き方です。平瓦と丸瓦とを交互に並べるために重くなるという短所がありましたが、最近では平瓦と丸瓦の一体型の瓦が開発され、屋根荷重も大幅に軽減され、それに伴い躯体工事費・瓦施工費もコストダウンできるようになりました。また、一枚連結のため、ずれ落ちや飛散・風化などが起こりにくくなっています。これにより、本堂屋根を本瓦葺きにすることは可能です。



本瓦葺き



平瓦葺き

・室中と広縁との境の建具

普段の法要では広縁まで使うことはなく、広すぎて落ち着かないし、空調の効率も悪いと考えられるので、建具が必要ではないか。ただし、大法要では建具が不要であるので、折り戸などで目立たないように収納できるようにならないか。

・本堂広縁は板の間とし、行事の時にはカーペットを敷いて椅子席とする。

奥行3間とる板敷の本堂広縁は、お彼岸・お施餓鬼・お葬式などの時にはカーペット等を敷いて椅子席を設けるようにしたい。また、通夜・葬儀の際に、シートを敷いて土足での入室も可能として、会葬の方のお焼香席とすることもできるのではないか。

II、庫裡

・玄関ホールの床の高さ

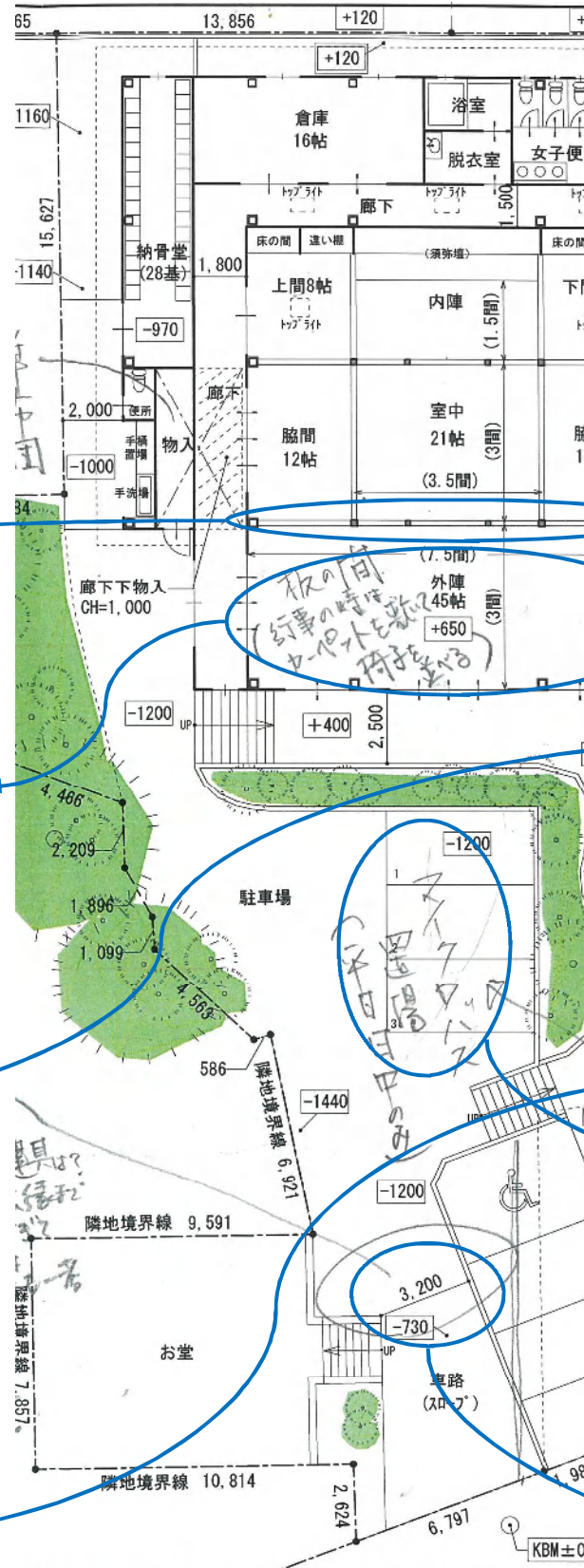
玄関ホールの床の高さをある程度高くしておかないと、坐って来客を迎える時、来客の視線が下がってしまい中腰にさせてしまうのでは落ち着かない。伝統的な庫裡の玄関に近い床の高さが理想だと思う。その上で、床面はすべて同じ高さのバリアフリーにしてもらいたい。

玄関もバリアフリーを考えて床面を低く設定しましたが、それでも車椅子で上がることはできません。幸い、本堂正面は内外の段差が少ないので、車椅子の方は本堂から上がっていただくということが考えられます。庫裡玄関の床の高さを確保するためには、本堂正面へ緩いスロープをつけることで対応できると思います。

・表和室と駐車場境界との縁切りをどうするか。

建物と駐車場が近すぎないだろうか。禅寺の静肅性、清浄さ、環境を保つために、駐車場とある程度の距離を保つ必要性があるのではないだろうか。

区画番号	1 階	2 階	計
本 館	214.03㎡(64.7坪)		214.03㎡(64.7坪)
その他	515.34㎡(155.9坪)	166.12㎡(50.2坪)	681.46㎡(206.1坪)
延べ面積	729.37㎡(220.6坪)	166.12㎡(50.2坪)	895.49㎡(270.8坪)





・奥倉庫への入り口が書院の上座からしか入れないのは不都合である。

書院使用時に、荷物の出し入れができないのでは、倉庫として不便なので、倉庫の位置や出入り口を再検討してもらいたい。

・書院、15帖三間を18帖二間にしてはどうか。

今までの書院が15帖二間で不都合はなかったので、多少広げるにしても18帖二間で構わない。二間の仕切りが襖だと取り外しやはめるときに傷つけたり、忙しいときは大変なので可動式の間仕切りしてもらいたい。

・書院がせっかくの中庭に面していないので、厨房を奥に配してはどうか。

・表和室近くに、湯沸し室または簡易キッチンが欲しい。

来客用湯沸し室を応接室、表和室の近くに設け、来客時の動線をスムーズにもらいたい。

・表和室の使い勝手と広さ

役員室として役員会等を行う・花園会の事務を行う・役僧の投宿・大きい行事の時には老師等の隠察（控えの間）とする。そこで、10帖または12帖と控え室とする。

Ⅲ、外部

・本堂前の土留め壁面はどのような仕上げにするか。

壁面の仕上げは予算にも関係しますが、土留めの高さは1m80cmほど考えてあります。土留めの上に植栽をして、駐車場と本堂との区切りを明確にし、また本堂から外を見たときに、緑に囲まれた印象を持てるようにしました。

・植栽・外構は見積もりに入っているのか。

概算ながら、植栽・外構工事も見積もりに入っています。

・お寺の自家用車は、庫裡前の駐車場に置く。

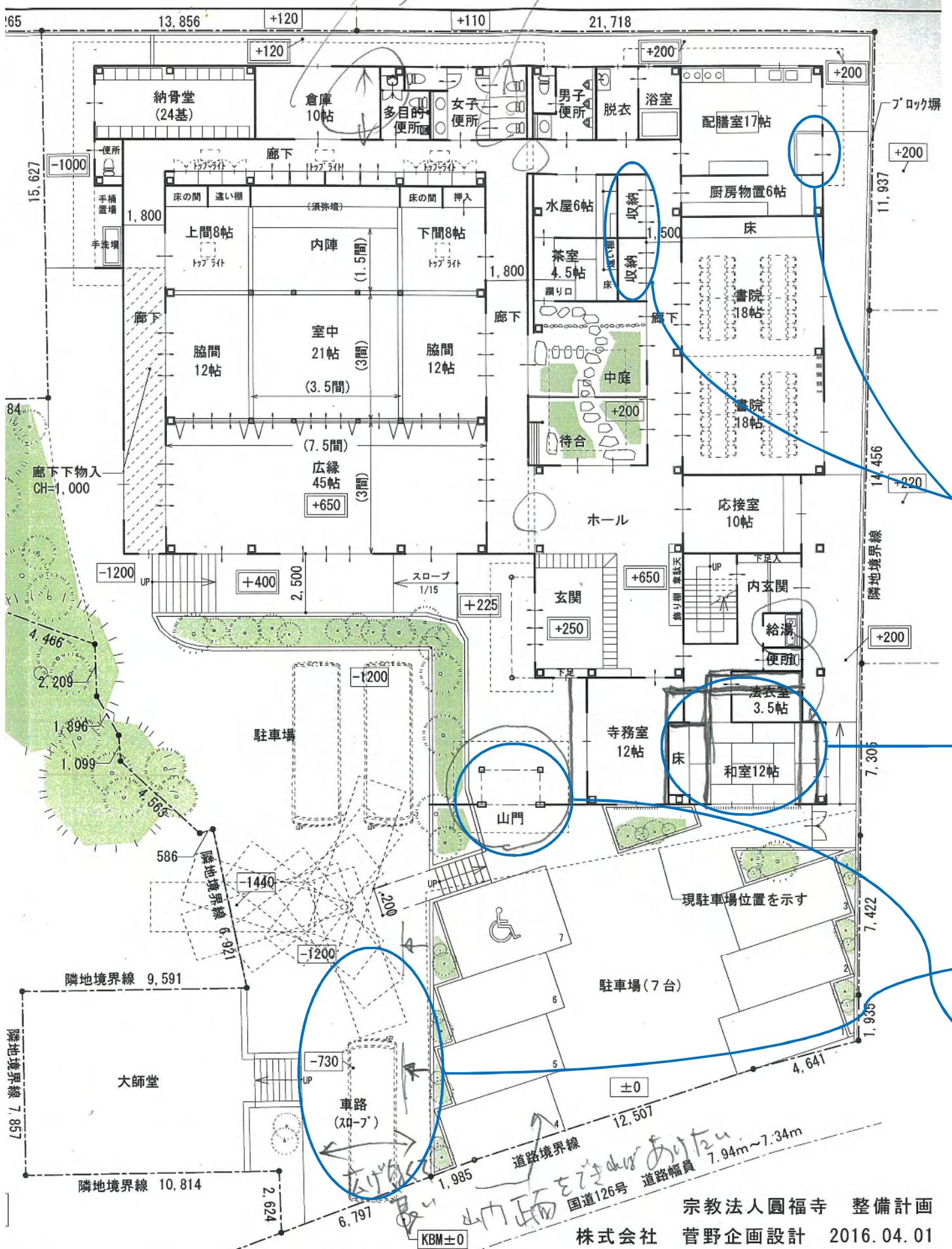
・幼稚園マイクロバスは、本堂前の駐車場に置く。

現在の駐車場から、高低差を付けずに庫裡・本堂へ行けるようにするのであれば、幼稚園のマイクロバス置き場は本堂前の低い位置の駐車場に作る。これにより、お寺と幼稚園との区分けが明確になり、平日日中の本堂へのお参りやお墓参りの方の駐車等もご不便をおかけすることがなくなると思う。また、土日等幼稚園が休みの時には、本堂前の駐車場もお寺で使用することができ、駐車台数を現在より確保することができる。

・大師堂前のスロープは、マイクロバスが園庭から、本堂前駐車場から出ていけるだけの幅を確保すること。

・本堂前の駐車場へのマイクロバスの入出庫の動線を確認すること。

4月1日 第2回打ち合わせ



第1回目の打ち合わせを反映して、基本計画案が変更されました。出来上がった平面図をもとに、第2回目の打ち合わせが4月1日に行われました。

変更点



・駐車場の形態を変更

幼稚園のバス置き場を本堂前に移動したことで、お寺の駐車場を庫裏の前に配置し、駐車場をすっきりさせた。

・駐車場から境内への入り口に、山門を設けた。

・玄関ホールの床の高さを確保した。

玄関ホールの床の高さを確保したうえで、建物内部の床をバリアフリーにするため、本堂正面へは緩いスロープを設けた。

・本堂西の床下倉庫を拡張した。

行事等で使用するものを収納する外

の物置として、本堂西の床下を利用する。これに伴い、墓地のトイレ・手桶置場等の場所を変更した。

・本堂室中（しっちゅう）と広縁の間に折り戸を設置した。

・書院を18帖二間に変更した。

これにより、応接室を拡張することができた。また、厨房は庫裏の一番奥に配置することで、書院が中庭に面するようになった。

・表和室の変更により、中庭を拡張することができた。

玄関も広くすることができ、駐車場と建物の距離もとることができた。

質問、要望など

I、庫裡

・書院の押入れは？

前回の打ち合わせを反映した結果、中庭を拡張することができ、水屋・茶室に接した収納を設けることができたので、この場所を書院の押入れとしての使い方ができると思います。

・厨房の踏込は不要。

厨房室内に踏込があると安全面で不安があるので、靴は外に脱げるようにして構わない。

・表和室の改良

下座から出入りできるようにしないと使い勝手が悪いので、床の間を東側に変更する。給湯室はこの部屋に隣接させ、板敷きの踏込にする。

II、外部

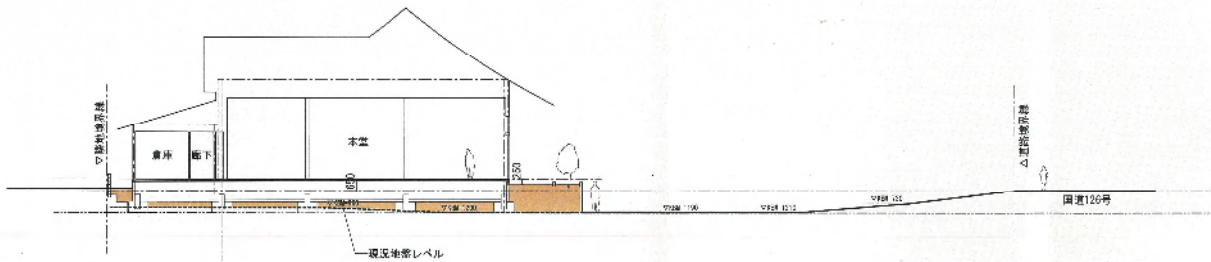
・大師堂前のスロープについて

大師堂前のスロープを拡幅していただきましたが、現状でマイクロバスや4トン車の出入りに支障はないので拡幅しなくともよい。今までと違って、大師堂前がメインの入り口ではなく、現在の駐車場から主となる入口になると思います。

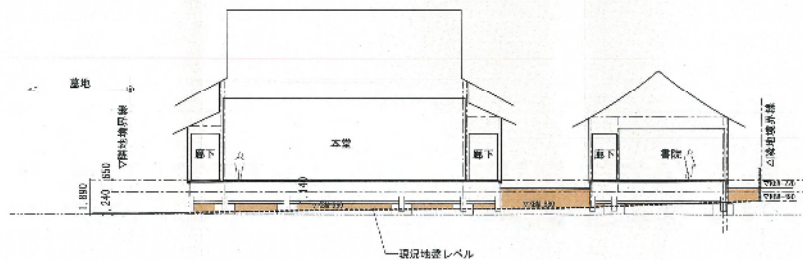
大師堂前のスロープを拡幅しなくてよければ、庫裏玄関前のスペースに余裕ができ、お参りの人が多い場合にも都合がよいと思います。

・山門はトータルバランスを考えて。

禅寺の入り口に山門は欠かせませんが、無理やり設けることで狭苦しくなったり、屋根の取り合いがおかしくなったりしないように、全体のバランスを考えて建てるかどうかの判断をしたいと思う。



南北方向 断面図 1/200



東西方向 断面図 1/200

：地土を示す

宗教法人圓福寺 整備計画
株式会社 菅野企画設計 2016.04.01

臨濟宗妙心寺派 圓福寺

千葉市稲毛区穴川町375

電話：043 (251) 9181

FAX: 043 (251) 9549

電子メール: oshou@chiba-enpukuji.com

圓福寺の境内地は、道路との高低差があるという特徴があります。その特徴をどのように活かすかも伽藍再建の大事な要件の一つです。半地下利用なども考えましたが、経費が掛かりすぎたり、道路から高くなりすぎたりと、いろいろ検討した結果、道路・駐車場からのバリアフリーを優先することにいたしました。

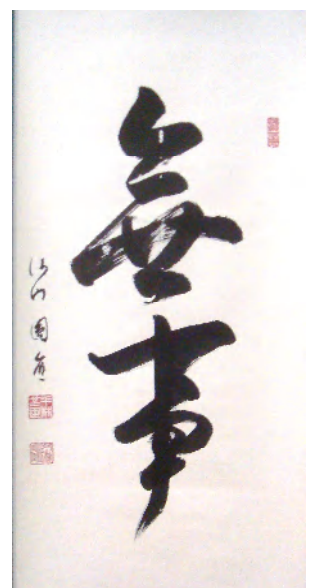
次号は、イメージ図も少し掲載します。

基本計画の打ち合わせを重ねて、改良を重ねて、少しずつ基本計画がまとまっていく方向にあります。

よそのお寺さんに比べて、倉庫・収納が多いというのが、設計士さんの抱いた不思議だったようです。圓福寺の行事に、実際にお手伝いくださっている役員さんならではの、地蔵盆の道具をどうするか、年越しまいりのお守りやお札をどこにしまうのか、お彼岸やお施餓鬼の調理用具をどこにしまうかとか、書院をイス・テーブルにしたらその収納をどうするんだとか、具体的に意見が出てまいります。

それを聞いていた設計士さんが、「そんなにたくさんの行事をされているんですか？」と驚かれます。特別な行事をしているつもりは毛頭ありませんが、まだ設計士さんに渡していない、この「再建だより」も、「こんなものも発行しているんですか！ 檀信徒の方も喜ばれるでしょう。」と驚かれるかもしれません。

次号では、更に打ち合わせが進んだ基本計画をご紹介できると思います。そろそろ、平面図だけでなく、イメージ図などが欲しくなってくるのではないのでしょうか。



放牛窟糸原圓應老大師の墨跡
「無事」